

V. 国際連携

本センターでは、海外の大学教育の研究開発組織や研究者・実践者との交流・共同研究を進め、そのプロセスや成果をシンポジウム、研究会、書籍などで公開しています。

1. USRN

University Social Responsibility Network (USRN: <http://www.usrnetwork.org>) は、様々な課題に直面している今日の社会において、大学が教育・研究・社会貢献等の活動を通じた貢献により社会的責任を積極的に果たす、という取組を推進することを目的に設立された国際的大学間連携ネットワークです。基幹校である香港理工大学を中心として現在世界各国から16の大学が加盟しており、京都大学は日本で唯一の加盟校となっています。現在、本センターは、本学の国際戦略本部ならびにUSRNに加盟する香港理工大学、マンチェスター大学(英国)、サイモンフレーザー大学(カナダ)、ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)、サンパウロ大学(ブラジル)、プレトリア大学(南アフリカ)と協力し、主として大学の教職員やアドミニストレーター、学生、高等教育関係者等を対象受講者として、USRの基本的な考え方や取組のプロセスや成果について各大学の模範的実践例から学び、自らの大学においてUSRをどのように企画・推進していくかを支援するMOOC「Introduction to USR」の制作を主導しています。本MOOCは、2020年夏に開講を予定しており、本学の加盟している国際的MOOC協議会edXを通じて配信される予定です。



(飯吉 透)

2. 公開研究会:第95回「学生にとって有意義なコミュニティ・エンゲージメントとは何か」

2019年4月18日、エルサレム・ヘブライ大学よりダフィナ・ゴラン教授をお招きして、第95回公開研究会「学生にとって有意義なコミュニティ・エンゲージメントとは何か」を開催しました。ゴラン教授は、同大法科大学院で人権について教えるかたわら、「社会変革のためのキャンパス・コミュニティ・パートナーシップ」のディレクターも務めておられます。この組織は、イスラエルの大学で、コミュニティ・エンゲージメントの授業(コミュニティの抱える問題に学生が関与する授業)を推進するために、2006年に創設された組織です。日本では、「サービス・ラーニング」という表現が使われていますが、欧米では近年、高等教育機関とコミュニティ(地域、国、グローバルなどのさまざまなレベルでのコミュニティ)との協働を指すのに、「コミュニティ・エンゲージメント」や「キャンパス・コミュニティ・パートナーシップ」という表現が使われることが多くなっているそうです。セミナーではまず、コミュニティ・エンゲージメントが、学生の自信やリーダーシップを高めることが示され、その後、以下の4つのベスト・プラクティスの紹介がありました。



①**コミュニティで通訳する**:学生による病院での通訳活動(ヘブライ語を母語としない学生が病院に行って、彼らと同じ母語の患者さんのために通訳する)

②**アートと住民運動**:学生・教員・住民による鉄道公園の建設(地域を横断する高速道路の建設計画に反対し、鉄道公園に変更する)

③**性暴力の予防教育**:学生による高校でのワークショップ(イスラエルとパレスチナの生徒たちに性暴力の予防教育を行う)

④**Liftaを守れ**:緑豊かな村の保護(緑豊かな廃墟の村Liftaを再開発計画から守り、自然保護区にする)

コミュニティ・エンゲージメントに関わる授業は、ほぼ全てのユダヤ人とアラブ人の学生たちにとって、初めて「相手」と話することができる「安心して互いから学び合うための最適な場」として価値あるものと捉えられているそうです。コミュニティ・エンゲージメントを通じて、学生は疎外感を克服し、現実世界と他者と自分自身との繋がりを取り戻していくという言葉が印象的でした。

参加者は、22名(学内20名、学外2名)でした。



(松下 佳代)

3. 訪問・参加報告

(1) 2019 Open edX Conference

会議名称	2019 Open edX Conference (https://open.edx.org/events/open-edx-2019-conference/)
期間・場所	2019年3月26日～29日、カリフォルニア大学サンディエゴ校(米国)
参加者	Isanka Wijerathne

今回のOpen edXカンファレンスはカリフォルニア大学サンディエゴ校がホストとなって開催されました。大学教職員、教育研究者、技術者、開発者などOpen edXプラットフォームに関心のある400名を超える人々が参加しました。私は2日間の会議の他に、トレーニングセッションや開発者サミットにも出席しました。本会議に加えデータ処理や開発などの技術セッションを中心に参加し、さまざまな情報を得る機会となり、貴重な経験ができました。



(Isanka Wijerathne、訳: 安宅 純子)

(2) Open Education Global Conference 2019

会議名称	Open Education Global Conference 2019 (https://conference.oeconsortium.org/2019/)
期間・場所	11月26～28日、ミラノ工科大学(イタリア・ミラノ)
参加者	飯吉 透・酒井 博之・藤岡 千也

11月26日から3日間にわたり、Open Education Consortium(OEC)*が主催するOpen Education Global Conferenceがミラノ工科大学において開催されました。世界中からオープンエデュケーションの研究や実践に携わる研究者、教育関係者、技術開発者等、約270名が参加し、140を超えるセッションを通じてMOOCやOCWをはじめとしたオープンエデュケーションに関する現状や課題が共有され、今後の方向性等に関して活発に議論がなされました。本センターからは3名が参加し、京都大学のSPOCの実践に関して酒井准教授がポスター発表を行いました。

今回のカンファレンスでは、直前の11月20日にユネスコの総会においてOER(Open educational resources)の開発利用を促す勧告が満場一致で可決され、今後の本分野のより一層の展開の追い風となること大きな話題となりました。

*注: 京都大学が加盟している日本オープンコースウェアコンソーシアム(JOCW)はOECの賛助会員(sustaining member)となっている。



(酒井 博之)